

リーグVと昇格誓う

社会人ラグビー 日立サンネクサス今季3位

日立市を拠点にする社会人ラグビートップイーストリーグBの日立サンネクサス茨城は、リーグ戦3位で今シーズンを終えた。6勝2敗で上位3チームが並んだが、勝ち点で及ばず、上位入れ替え戦進出圏に一步届かなかった。一方で、芳崎風太選手(22)は得点王を獲得し、横瀬慎太郎選手(25)は7人制日本代表で活躍。来季はリーグA昇格を「最低目標」に掲げる。

チームは昨夏、地域に密 運営母体を日立製作所日立着した活動を強化するため 事業所から移管した。地域一般社団法人を立ち上げ、クラブとして日立市とホー



丸和運輸機関戦で攻撃を仕掛ける日立サンネクサス茨城の選手。昨年11月13日、日立市東成沢町の市民運動公園陸上競技場(クラブ提供)

芳崎選手は得点王／横瀬選手7人制代表



リーグ得点王の芳崎風太選手(右)と7人制日本代表で活躍した横瀬慎太郎選手＝日立市内

ムタウン協定も結び、新体制で昨年9月のシーズン開幕を迎えた。

リーグ戦は全5チームがホーム&アウェイで対戦。ひたちなか市での開幕戦から2連勝を飾ったが、その後は優勝した丸和運輸機関(千葉)と2位の明治安田生命(東京)に連敗。チームの戦い方が十分浸透せず、序盤は勢いに乗り切れなかった。

負けが許されない状況で迎えた同11月からの後半戦。規律を守って反則を減らすことを徹底し、堅い守備で対抗した。主将を中心にした結束し、芳崎選手は持ち

味のキックで、横瀬選手はスピードでチームに勢いを与え、同12月の最終節を4連勝で終えた。

内田剛マネージャーは今季を振り返り「課題を解消できなかったのが反省点。厳しさが足りなかった」と総括。来季に向けて「皆でベクトルを合わせて進むのが大切」と話し、リーグ優勝と昇格を誓う。

入団1年目で司令塔を担った芳崎選手は、コンバートジョングール16本とペナルティゴール14本を決めて74点をマーク。低い弾道のキックが特長で、蹴る際には毎回同じリズムを生み出すため、逆腹式呼吸をするルーティンを行う。

小学生までサッカーとの「二刀流」だったという芳崎選手は「得点王は素直にうれしい」と喜ぶ一方、来季も得点源であり続けるため、キックの成功率は現状の8割から9割程度まで高めていきたい」と意欲を示す。

土浦市出身の横瀬選手は、50歳を5・9秒で駆け抜ける快足ウィング。今季はけが明けで相手の徹底マークにも苦しみ、3トライにとどまったが、「来季はしっかりチームにコミットして結果を出したい」と先を見据える。

横瀬選手は昨年初めて7人制日本代表に招集され、海外遠征で強豪国との試合を経験。「世界にはまだまだ上がいる。大きなモチベーションになった」と振り返り、2024年パリ五輪出場へ「可能性がある限り諦めない」と力を込める。

日立市とひたちなか市内で開いた今季のリーグ戦ホームゲーム3試合には、毎回700〜800人が来場した。市内では今年7月、ラグビーの試合ができる人工芝の会瀬スポーツ広場(同市会瀬町)が供用開始する予定で、チームは同広場を拠点に選手強化と地域活性化に取り組む。

(戸島大樹)